©みんなのよい食プロジェクト

JA自己改革
～実はSDGs～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 トマトサミットでは生産増大・品質向上へ話し合い　2 生産課題に対して意見交換をする生産部会役員ら（いちごサミット）
3 柑橘サミットでは出席者全員で柑橘園地を巡回

JAふじ伊豆 産地構想を協議 合併メリット創出へ

JAふじ伊豆は合併初年度にあたり、各主要品目で今後の産地構想を協議する品目別サミットを開催しています。販売高が高く、管内で広く栽培される「イチゴ」「柑橘（かんきつ）」「トマト」「ワサビ」など、広域となった当JAの統一的な産地構想を構築します。

同サミットには、各地区の生産部会役員、当JA藤沼和明常務や営農担当職員、県東部農林事務所、JA静岡経済連の職員らが出席。8月12日には柑橘園地巡回後に柑橘サミットを、24日にはいちごサミットを沼津市内で開催。9月22日にはトマトサミットを伊豆の国市内で開き、次の事項を協議、決定しました。

柑橘サミット

現況や将来の出荷目標を踏まえ、産地を守るために通年出荷できる戦略的な品種構成の構築や、将来的な統一出荷に向けて協議。さらに議論を深めていきます。

いちごサミット

生産者戸数の将来予測値をもとに、新規就農の体制づくりの必要性や、将来的な一元分荷体制の実現に向けて進めていくことなどを議論。既にニューファーマーの受入体制やパートナー市場との関係性が強い伊豆の国地区モデルをもとに検討を重ね、体制を構築していきます。

トマトサミット

20年ほどでニューファーマーが50人を超える伊豆の国果菜委員会の事例を共有。全体的な生産力向上のため、各地区部会から有志を募り、相互に技術研さんや情報共有するグループを結成し、生産増大・品質向上につなげていきます。

藤沼和明常務は、「県内有数の産地として新たな産地構想を確立し、生産振興や販売戦略を組合員の皆さまと共に実践していきたい」と話しました。1月にはワサビサミットを開催予定です。

※SDGsとは「持続可能な開発目標」という意味で、国際目標として国連で採択。17の目標を設定しています。

輝く！女性部・青壮年部

なんすん地区本部
地域に広がるSDGsの活動

女性部なんすん地区本部は18支部で構成され、約950人が日常を充実させる活動や食農教育活動などに取り組んでいます。

その活動の一つとして、「えがおの会」では、女性部員が地域住民と力を合わせてSDGsを実現しようと、本年度から「SDGsの日」の活動に取り組んでいます。

同会は、コロナ禍でミニデイサービスの活動が困難となり、JAと協力してフードドライブやエコキャップ、プルタブの回収を行っています。6支店の会場で10月までに10回開催し、520点の食料品が集まりました。食料品は、地域の福祉施設などへ寄贈し、エコキャップは発展途上国の子ども向けワクチン代、プルタブは車いすと交換し、高齢者施設へ寄贈しています。

10月20日の活動で集まった食料品などは長泉町で活動する「フードバンク『てとて』」を通じて、地元の希望者に配布されました。「てとて」代表の金井淳子さんはJAふじ伊豆女子大学卒業後、女性部に加入し、現在は長泉町でフードバンク活動を行っています。

10月20日の活動に参加した「えがおの会」の皆さま

「フードバンク『てとて』」の皆さま

JA女性部

御殿場地区本部
米栽培を柱に食育活動に力を入れる

青壮年部御殿場地区本部は各支部で、地域貢献活動として箱根トレイル登山道整備や草刈りの他、食育活動にも力を入れています。

米作りの大変さや米がどのように作られているのかを知ってもらおうと、支部ごとに「米米クラブ」を開催し、御殿場・小山地区の小学5年生を対象に平成11年から田植えや稲刈りを指導しています。

その他、農業の楽しさや収穫の喜び、盟友の仕事を知ってもらおうと、「親子あぐり教室」を開催。米やサツマイモの栽培、酪農体験、ソーセージ作りやお茶の入れ方などを教え伝えています。コロナ禍で2年ほど開催できていない状況が続いていますが、農業体験ができるイベントとして人気です。

令和2年の「第17回お米日本一コンテスト.inしずおか」では、高根支部が栽培した「コシヒカリ」が特別最高金賞と県知事賞をダブル受賞するなど、盟友の活躍が光ります。農協祭では恒例の米のポン菓子サービスを行い、米産地としてのPRにも力を入れています。

米コンテストで入賞した高根支部の盟友

親子あぐり教室で稲刈り体験

JA青壮年部